朝日新聞

インタビュー

高騰続く卵価格　ブランド卵「ヨード卵」、社長が語った意外な影響

2026年4月14日 11時00分

山田暢史 井東礁

日本農産工業の販売するブランド卵「ヨード卵・光」

鳥インフルエンザの流行により、卵価格の高騰が続いている。日本初のブランド卵「ヨード卵・光」を販売する日本農産工業（横浜市）の小山剛社長が高騰の背景や、自社商品への意外な影響を語った。

――鳥インフルエンザが猛威をふるっています。

「防ぐように各社でみんな努力はしています。ただ、ウイルスは目に見えませんし、感染力も強いものがある日突然やってくる。どんな生産者でも鳥インフルエンザにかかりたいと思って農場を運営されている方はいらっしゃらないです」

鳥インフルで卵高騰、揺らぐ「物価の優等生」　イラン情勢もリスク →

――感染拡大を防ぐため、海外で実施例があるワクチンの導入についての議論もあります。一方で、ワクチン接種によって、感染したニワトリを見つけるのが遅れたり、ウイルスが変異したりする可能性も指摘されています。

「期待している人もいます。一長一短あるとは思うのですが、鳥インフルエンザを防ぐためにはワクチンを打つというのも一つの解決方法になると思います。農林水産省に慎重に検討していただいているという状況だと思います。我々は与えられたルールの中で、やっぱり生活必需品である鶏卵の安定供給を一生懸命やっていくということに尽きるのかなと思います。発生には毎年戦々恐々としていますね」

「また、いかに被害発生を抑えるかということも大事だと思います。発生した後ちゃんと再開できるような仕組みにして頂けないと、なかなか持続可能にならないのです」

――養鶏業界では大規模化が進んでいます。

「大規模化は避けて通れず、現状は各地に点在した農場を展開している大手生産者が多いと思います。BCP（事業継続計画）の観点では、ここがやられてもこっちは生きているとか、被害が発生して一部が止まっても再開できるような仕組みは整っている状況です。大規模化の流れは多分加速していくと思います」

インタビューに応じる日本農産工業の小山剛社長=2026年1月14日午後1時45分、横浜市、山田暢史撮影

――卵の価格は高騰を続けています。

「引き金は飼料価格の高騰だと思います。ロシアとウクライナの戦争に端を発してですね、穀物価格が高騰し、それに応じて飼料価格も上がりました。農家さんもそれをコストに転嫁していかなきゃいけない。それをさらに加速させたのが、深刻な供給不足が起きた『エッグショック』だったと思います。飼料価格や物流費、光熱費が昨今かなり高止まりしている状況で、各社が値上げに向けて動いているという状況です」

――6個が税込みで380円ほどのヨード卵は高級卵です。卵価格の高騰で、一般の卵との価格の差は縮まっていますか。

「一般の卵を含めて他の卵の相場がぐっと上がると、ヨード卵の価格が相対的に安く見えますから、お客様に手に取っていただく機会が増えます。ですから、売り上げは少し伸びる。本来であればコストアップの分は厳しいので上げたいところではありますけど、我々は飼料を扱うメーカーですから、原料を買ってきて、卵を作って売るまでの一貫したところで何とかマネージできるのであれば、頑張って価格は据え置く。イラン情勢も含めて、不透明な局面もあるので、お約束まではできませんけど、今のところ踏ん張っていこうかなと。これを機に少しでもヨード卵が皆様の手に渡って、何か違いがわかって頂けるとありがたいなと思っています」

――卵は「物価の優等生」と呼ばれてきました。一定程度安くあるべきなのでしょうか。

「やっぱり再生産が利くレベルの価格は維持しないとダメだと思いますので、それが今の価格なのかどうかちょっと私も断言できません。やっぱり生活必需品ですし、なくてはならない食品の一つですから、ちゃんと再生産が可能なレベルであって欲しいです」

インタビューに応じる日本農産工業の小山剛社長=2026年1月14日午後1時46分、横浜市、山田暢史撮影

――ヨード卵は1976年に誕生し、今年で販売開始から50年となりました。

「ヨード卵・光っていうのは日本農産工業を表している一つのシンボル。結構こだわって作っているんですよ。店頭に並ぶヨード卵は、生後180～450日とすごく元気な一番いい時期にニワトリに産んでもらっています」

――今後の展開として何か狙っているマーケットは。

「一般のところまで大きく広げようとは思っていません。あくまでもプレミアムの卵で、生活者の皆様に彩りをもたらせるような味、色、それから機能。この三つと平飼いという市場のニーズに沿ったような卵を出して、我々は勝負していきたいと思っています」

有料会員になると会員限定の有料記事もお読みいただけます。

今すぐ登録（1カ月間無料）
ログインする
※無料期間中に解約した場合、料金はかかりません
スタンダードコースご登録で【タブレットやギフトカードが当たる】夏トクキャンペーン開催中

この記事を書いた人

山田暢史
東京社会部｜農林水産・食担当

フォロー

専門・関心分野
農林水産業、食、武道、災害

井東礁
経済部

フォロー

専門・関心分野
食料安全保障、ビジネス全般

関連トピック・ジャンル

ジャンル

経済 ライフスタイル 食・料理

朝日新聞のデジタル版に掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.